

国際奉仕委員会では（野村さん、稲葉衛さん、増田さん、勝又の4名）で今回の事業に取り組んできました。今年で4年目になったミャンマーへの支援金についてお話しをさせていただきます。最初に皆様には、半強制的に頂きました寄附金、本当にありがとうございました。毎年、メンバーの温かいご支援で20万円前後の寄付が出来ています。

まず最初に、何故MFCGミャンマーファミリークリニック菜園の会の名知先生だったのか？を説明させていただきます。

2019年当時の石井会長より、国際奉仕委員長の稲葉雅之くんに「年度内に新たな支援先を決めるように」と命令が下り、いろいろな候補の中、日本と同じアジアから最貧国であり歴史上、馴染みのあるミャンマーに着目をした。出張で訪れる機会もあり、現地のヤンゴンロータリークラブに相談したところ「貧困地域で頑張っている日本人女医の名知さと子先生」の存在を知り、リサーチの結果石井会長に報告した所、承認され事業が開始された。4年という継続事業になり支援金がどの様に使ってほしいか？いつまで支援していくのか？今までの国際奉仕委員長に話を聞いたところ

① 支援金の活用方法？として

1、食（栄養の確保と飲料水）2、医療（巡回診療①の写真）・衛生の向上（ハミガキ・トイレ等②の写真）3、母子の安全4、住民の自立支援などに使ってほしい。

この対策を今、名知先生が先頭に立って行い 保健衛生教育→診療→菜園づくりのサイクルを目指すことがMFCGのミッションとなっています。

② 今後、当クラブはどの様に関わって行くか？（これも各委員長の意見として）

やはり、みなさまの貴重なお金を無駄にはしたくないので、現地で実のなるように運用して頂きたいと願います。今後、継続していくなら、グローバル補助金等を活用していくなどの選択肢はあると思います。又、次年度以降にこの問題を考えて行きたいと思えます。

以上が、4年間の国際奉仕委員長の 稲葉雅之君、土屋順史君、シャムさん、勝又より意見を聞いてまとめてみました。

2020年3月6日より（丁度、コロナが始まったばかり頃）、名知先生を紹介してくれたヤンゴンロータリークラブの木下氏との連絡を取り合い、メールのやり取りが数十回におよび、細かいやり取りをしました。2020年3月31日に名知先生とメールの交換が始まる。2020年6月25日名知先生より寄附金のお礼があり機会を作り、是非、お礼のご挨拶に行きたいと連絡を頂く。その2年後昨年10月7日に、名知先生の卓話が実現できた。2020年7月17日にはヤンゴンロータリークラブの木下氏が伊東に来て卓話をしてくださいました。

10万円での、費用対効果ですが、下痢を予防できる石鹸は約2500人分 薬は約1778人分 毎月13人分の栄養失調患者を、1年間治療できるなどです。

次にミャンマーの現状を、簡単に説明しますと。

人口、5,300万人余りのうちの約80%が農村部に住み医療も保健衛生の知識を得る機会

もほとんど無い人がいます。近くに診療所が無く3日かけていく人もいます。診療所に行くための交通費は彼らの日当およそ200円の3倍位になるそうです。

マラリアにかかった場合、子供なら1回150円の薬で治りますが彼らの日当に匹敵するそうです。そして2か月前、名知先生より現地の子10歳と14歳の姉妹がメイドに出された、残された家族が食べていくために売られてしまったとメールをいただきました。本当にショックだったと、人身売買が行われている、これがミャンマーの現実なのです。

巡回診療は 名知先生、現地医師が12の村を診察して住民と良い交友関係を築く事、そして現地のニーズに合っているかを調査し、医療活動を進展させることを目的にしています。保健衛生指導は 住民の人たちに教えていく事を行っています。石鹸を使った手洗いや食べ物の栄養バランスの大切さを勉強しています。例えば、脚気を予防する為にコメのとぎ汁を飲むことを推奨しています。又、軒先にある水瓶はボウフラが湧きやすいので蓋をするように指導しています。

家庭菜園の支援

栄養不良の原因は十分な食べ物が無い、バランスの悪い食生活です。そこで、MFCGは2015年に農業の専門家を呼び住民に無農薬栽培の指導を始めました。この結果ナス・トマトなどが実り栄養バランスが向上し、収穫した野菜などを売ることによって毎日、300〜400円の収入を得、毎月3,000円の貯金が出来るようになりました。

この様に、MFCGは国境なき医師団として各地を廻り医療に従事してきた名知先生が立ち上げました。その過酷な現実の中、名知先生が行き着いたのが、住民たちが健康について自分たちで考え、問題を解決できる社会を作る事でした。ミャンマーの人たちが希望を持って子育てをし、家族みんなで健康的な生活を当たり前のように送れる日、その日が来たらMFCGのミッションは終了します。皆様はその輪に加わって下さったら、また一歩前進できると思います。と述べています。そして、この10年間の名知先生の活動に対して、1月28日に埼玉県より埼玉出身の**三大偉人の1人である荻野吟子さん他に皆さんご存知の渋沢栄一・堀ほきいち（盲目の国学者）**荻野吟子さんは日本で最初の公認女性医師となった荻野吟子さんの不屈の精神を受け継ぎ、功績を称え名知先生（狭山市出身）が大賞を受賞された。先生自身もこの賞を頂けたことに対し素直に最高の喜びですとメールを頂きました。この受賞に対して当クラブも支援してきたことが間違っていなかったと思います。簡単ではありますが以上で終了いたします。**なお、未使用の切手、書き損じのハガキ等ありましたらよろしく願います。寄付金も受け付けています。**